

青森県立野辺地高等学校

創立九十周年記念式典

式辞

吹く風も日ごとに冷たさを増し、深まりゆく秋を感じる今日のよき日、青森県教育委員会 委員中沢洋子様をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り青森県立野辺地高等学校創立九十周年記念式典を挙げて行きます事は、在校生はもとより、教職員一同 誠に光栄でありこの上ない喜びとするところであります。心から感謝申し上げます。

さて、北は陸奥湾に面し、南に八甲田を臨むここ野辺地町は、雪解けの春には愛宕の山に桜が咲き誇り、光あふれる夏は、十府ヶ浦に子供たちの歓声がひびく、大いなる自然に恵まれた実に風光明媚な土地であります。さらに、縄文時代から人々が生活をし、交通の

要所として栄え、特に江戸時代から明治にかけては、全国的にも有数の栄華を誇った港町でありました。その歴史は今も尚、町の至る所にたたずみ、大切に受け継がれています。このように、豊かな自然と奥深い歴史に抱かれ、本校は九十年の時を粛々と刻んで参りました。大正十五年青森県立野辺地中学校として開校され、昭和二十三年に野辺地高等女学校と統合し、青森県立野辺地高等学校となり現在に至っています。以前は通信制課程、定時制課程、横浜分校を抱える県内有数の大規模校でありました。そして今日に至るまで、「質実剛健」「自治協同」「能率増進」の綱領のもと教育活動を推進し、この薰陶を受け本校を巣立った二万三千余名の卒業生は、今その一人一人が社会の荒波に耐え「野高魂」を發揮し、活躍している事は周知の通りであります。それはとりもなおさず、県立野辺地中学校時代から連綿と続く誇りと情熱の賜の何ものでもありません。「冠たる野辺地の名に叶

へ！」九十周年の記念すべきこの年に、あらためて冠にいたたく野辺地の名に叶うよう、その歴史と伝統を守るべく、心をひとつにし、さらなる発展を目指していきたいと思います。

今ここに、九十年という、気の遠くなるような長い歴史を振り返る時、創立以来幾度となき厳しい風雪に見舞われながらも、よくぞ耐え抜き、今日の揺るぎなき評価を得る学校に成長できましたのも、これひとえに、青森県教育委員会をはじめとして歴代校長、教職員、同窓会、保護者並びに地域の皆さまの温かいご支援とご指導があつたからこそと、深く感謝申し上げます。こうして今、草創期当時の諸先輩のご苦勞を忍ぶ時、万感胸に迫る思いがいたします。

ところで、混迷の様相を呈する日本の将来は、そして、私たちの迎える未来の社会は、どのように変化していくのでしょうか。否応なしに国際化・情報化はますます発展し、少子高齢化という問題を抱えながらも科学技術

の進歩には一層の拍車がかかる事でありましよう。先の見えにくい不透明な世の中ではあります。未来を背負って立つのは言うまでもなくここに在る在校生であり、また将来入学してくる生徒たちなのです。野辺地高校は、ここに学ぶ若者の心と体を、大切に育んでいく事のできる学校である事は、紛れもない事実であります。さらに本校は、諸先輩方が守ってきた綱領を胸に、人の心を大切にし、自らの手で未来を切り開く人間を育てていく学校であると確信しております。そして、希望という名の太陽に向かって明るく咲き競うひまわりのように、未来永劫、夢に向かって邁進する若人の集う学舎であれと私は心から願ってやみません。

「九十年の時を越え、新たな夢へ動き出せ！」このスローガンのもと、全校を挙げて九十周年という今日のこの大きな節目を迎えました。本日を契機として、野辺地高校は、さらによりよい教育の実現のために、教職員並

びに生徒とともに努力を惜しまず、輝かしい
未来を切り開く、更なる一步を踏み出す事を
お誓い申し上げ、式辞といたします。

平成二十七年十月十日

青森県立野辺地高等学校

校長 漆館 栄一